

地域活性化特別委員会 視察研修報告

実施日 平成23年11月17日～18日

視察地 島根県江津市 桜江地区 「NPO法人結ま^{ゆい}ーるプラス」

視察地 広島県 神石高原町

報告者 今元直寛

11月17～18日の両日にわたり島根県江津市(ごうつし)の山間部、桜江地区で活躍している「NPO法人結ま^{ゆい}ーるプラス」理事長かわべまゆみ氏との意見交換、広島県福山市の北側にある神石高原町に現地視察研修を行った。

旧桜江町(人口3,500人)は平成16年に日本海側にある江津市と合併した島根県西部石見地方の町である。かわべ氏は、平成11年にご主人の故郷へイターンし種々の町づくりに携わり、平成17年前述のNPO法人を設立、都会のニーズに結びつける情報を発信し続けている。NPO法人設立には現職の行政マン、建設会社を始め民間企業の社員、農林事業従事者、地元で神楽をしている人などいろいろな分野で活躍している方々が参加した。

空き家の活用、定住施策について、もともと、定住希望のニーズはあった。しかし、具体的な交渉に入るとよそ者には貸したくないとの根強い感情があり、宅地建物取引業法に抵触するトラブルも考えられる為「宅地業の特認認定」を受けて活動している。その結果2、3年で定住人口は250人に達している。3,500人の地区に250人の定住者が占める割合はかなりの数値になる。定住者の一組、福岡から来た50代の夫婦は、荒れ果てた桑畑を再生して桑の葉から「桑茶」の製造、販売もしている。今では売り上げ3億円にまで成長し、パート従業員まで入れると50人程度の雇用を生んでいる。また、現在使用しているNPO法人の事務所は、無人化していたJR三江線川戸駅舎の利用である。元々桜江地区の中心地であったため地元のイベント企画、情報の発信、気軽に立ち寄るサロン、また、なんでも相談に乗ってもらえる駆け込み寺的要素を持った心温まる場所であった。

ここでかわべまゆみ氏が力説する「定住促進の5ヶ条」と「空き家活用の5ヶ条」を紹介します。

～定住促進5ヶ条～

1. 定住は「数」ではなく、「質」。「質」を追えば、やがて「数」につながる。
2. 「良い人」が来れば地域は良くなる。「良い人」とは「地域を愛する人」。
3. 「定住」とは「結婚」のようなもの。相性が合わなければ縁は結ばない。お互いのために。
4. 「定住してきた人」は地域のお仲間。細くとも、未長～く仲良くお付き合い。
5. 「交流から定住」は私たちの地域にはあてはまらない。

～空き家活用5ヶ条～

1. 空き家の放置は、地域の迷惑。過疎化を進ませ、地域の衰退と荒廃を加速する。
2. 故に、「空き家放置罪」とまでいわないけれど、「空き家放置税」くらいどうだろうか。
3. とにかく試すべきは、「地道に成功事例を作ること」空き家も人も自ずと集まる。
4. 忘れるな。「空き家活用」も「定住」も、あくまで手段、目的ではない。
5. 以上、すべてのこだわりは、純な「地域愛」があればこそ。

また、「石見問屋」と銘うったネット販売組織があり、徹底的に吟味し開発した石見地方ならではの物品を世界に発信している。

神石高原町の研修報告は、紙面の都合により次回29号に掲載します。



かわべ氏とともに